

地方創生交付金事業評価調査

細事業名	ふるさと農業創生支援事業	担当課	農政課
実施時期	H28.6～H29.3		
交付金名	地方創生加速化交付金	基本目標	1「しごと」を創出し働く場をつくる
事業費(千円)	2,000	施策の展開	(1)新たな「しごと」にチャレンジする就業・起業支援
交付金充当額(千円)	2,000	想定される主な事業	①創業・起業の支援

○事業の目指す方向

市内農業者の新たな農業経営の展開を支援することで、農家自身による新たなコト興しを推進し、農家所得の向上に寄与するとともに、地域農業の魅力の発信と価値の創出に努める。

○事業概要

農業の魅力を生かした農家民宿や農家レストラン等の企業者が相互に連携し学習交流できる場づくりや外部への情報発信を推進するとともに、新規導入のためのノウハウを講習するセミナーの開催、またすそ野を広げるための農業者の実体験の機会づくり(体験民泊の受け入れ)などを企画し、実施する。

○実施状況

- (1) 農の魅力情報発信事業
 - ・農家レストラン等の取組を紹介するリーフレットの作成
 - ・交流及び学習機会の設定: 2回
- (2) 農家民宿開設支援事業
 - ・セミナー(説明会): 2回
 - ・相談窓口設置: 常設
- (3) 農村教育民泊開催事業
 - ・農村民泊による体験ツアーの開催
 - ・受入家庭を対象とした交流・学習会: 2回

○KPI

KPI	指標値	実績値(H29.4現在)	達成度(100%)
農家民宿開業数	13	11	85%

○分析

(1) 市民や社会のニーズを反映しているか

学生を対象にした農業体験(農山村教育民泊)や南丹市内の地産地消に取り組む農家レストランを紹介したリーフレットの作成、民宿開業のための相談窓口の設置等を行っており、市民や社会のニーズを農業の分野から反映させている。

(2) KPIに寄与しているか

農家民宿開業に係る相談窓口の設置や、セミナー(説明会)を開催している。

(3) KPIの達成状況

平成28年度の目標値は達成できなかったが、相談窓口にて相談もあったことから今後の増加が期待できる。

(4) 整備された施設や成果物は活用されているか

作成されたリーフレットについては各関係機関に配架している。

(5) コスト削減や業務効率化に向けた工夫

委託事業であるため直接業務は行っていないが、仕様書どおりの業務が執行されているかや今後の事業の進め方等の協議を行っており、業務に無駄が無いようにしている。

(6) 関連している事業との連携状況

○今後の展開

平成28年度の事業を継続していく。
また、業務委託先の団体と定期的に協議を行いながら必要に応じて計画、方向性を修正していく。

○今後、キーパーソンとなる人物や団体(この事業によって得られた成果物なども含む)

業務委託先である一般社団法人京都丹波・食と森の交流協議会については、毎年実績を伸ばしており、今後についても内容の拡大や更なる充実が期待できる。

地方創生交付金事業評価調査

細事業名	創業支援事業	担当課	商工観光課
実施時期	H28.10～H29.3		
交付金名	地方創生推進交付金	基本目標	1「しごと」を創出し働く場をつくる
事業費(千円)	848	施策の展開	(1)新たな「しごと」にチャレンジする就業・起業支援
交付金充当額(千円)	424	想定される主な事業	①創業・起業の支援

○事業の目指す方向

南丹市内の地域資源を活用し、地域が稼ぐ仕事づくりを進めるため、南丹市内において起業を志す者を対象とした創業セミナーを開催し、定住の促進と地域経済の活性化を図ることを目的として実施するもの

○事業概要

創業支援事業企画運営業務
 創業セミナー開催に係る、企画、運営、広報業務

○実施状況

11/12.13.19 12/3.17.18 計6回 3名受講 創業に関する情報提供と学習等を実施。
 各日とも10:00～12:00、13:00～17:30 6時間30分の講座
 創業をするには・創業プラン・売れる仕組み・南丹市情報・融資とは・人との関係・お金の流れ・販売促進実践を学ぶ・ウェブ販売促進を学ぶ・創業を語る

○KPI

KPI	指標値	実績値(H29.4現在)	達成度(100%)
創業件数	5	0	0%

○分析

(1)市民や社会のニーズを反映しているか

(2)KPIに寄与しているか

(3)KPIの達成状況

(4)整備された施設や成果物は活用されているか

(5)コスト削減や業務効率化に向けた工夫

(6)関連している事業との連携状況

○今後の展開

○今後、キーパーソンとなる人物や団体(この事業によって得られた成果物なども含む)

地方創生交付金事業評価調査

細事業名	むら・ひと・しごと創生事業	担当課	定住・企画戦略課
実施時期	H28.4～H29.3		
交付金名	地方創生加速化交付金	基本目標	1「しごと」を創出し働く場をつくる
事業費(千円)	15,395	施策の展開	(1)新たな「しごと」にチャレンジする就業・起業支援
交付金充当額(千円)	15,395	想定される主な事業	③むら・ひと・しごと創生

○事業の目指す方向

地方創生の趣旨に基づき、地域資源を活用した起業や若者の定住促進に向けた仕組みづくり、生活環境や地域福祉の向上に向けた取り組みなど、地域組織が行う多面的かつ先駆的で他のモデルとなる取り組みを支援し、地域の自立と若者の夢がかなえられる地域ならではの社会基盤の整備を行うとともに、地域を支える人材を育成する。

○事業概要

地域団体が自主的に行う事業で、特徴的な地域資源を活用した起業の仕組みがあり、定住促進に大きな効果が見込める事業に交付金を交付する。交付終了後も継続して事業展開が図れ、地域課題が総合的に解決できる仕組みであることも条件としている。特に地域でのしごとづくりが必要となる日吉・美山地域をモデル地域とし、地域資源を活用しながら事業を実働的に行うことができる団体からの提案事業を採択した。

(1)むらを創生するための事業 (2)ひとを創生するための事業 (3)しごとを創生するための事業

○実施状況

●森の湯治場

美山町宮島地域でホリスティック医療の観点から、自己医療で本来の健康を取り戻す実践場所のモデル地域を創設した。また、森林鍼灸院と森林内ヨガスタジオのインフラ整備を行い、代替医療の専門家が里山地域で開業できる環境を整備した。

●ひよし龍の森プロジェクト

日吉町世木地域が有する自然、施設、地域資源や人材など地域に点在するひと・ものをつなぎ、地域を訪れた都市住民が地域内を周遊し、一日過ごす「むら型」のアウトドアリゾートの仕組みをつくり、交流人口の増加、地域ならではの「しごと」の創出、移住定住の促進を図る取り組みとして「ひよし龍の森プロジェクト」を開始させた。

●みやまワーキングステイ

美山町地域でエコツーリズムをはじめ観光産業を目指す人材と地域で活躍する事業者が出会う機会を創出し、移住や新しい働き方、新たな担い手の確保につなげるため、3泊4日のショートステイプログラムを実施

○KPI

KPI	指標値	実績値(H29.4現在)	達成度(100%)
起業等によるしごと創出数	5	1	20%

○分析

(1)市民や社会のニーズを反映しているか

条件不利地である農山村地域で生活するためには、「しごと」が重要な要素である。さまざまな選択肢はあるが都会との距離は物理的に解消できないことから、地域内での「しごと」づくりが必要である。

(2)KPIに寄与しているか

特徴的な地域資源を活用した「しごと」づくりと、起業の仕組みづくりに寄与するとともに、定住促進に大きな効果が見込める。

(3)KPIの達成状況

「しごと」創出に向けた基盤が整備できたことにより、その中から新たな「しごと」を創出していきたい。

(4)整備された施設や成果物は活用されているか

平成28年度に基盤を整備し、引き続き新たな「しごと」創出に向けて取り組まれる。

(5)コスト削減や業務効率化に向けた工夫

(6)関連している事業との連携状況

各取組ともこれまでの地域の資源である森林資源、地域資源、エコツーリズム等の観光資源を活用したものであり、既存の事業と関連させ新たな事業に取り組んでいる。

○今後の展開

特徴的な地域資源を活用した「しごと」創出に継続して取り組むことで、定住促進につなげて地域の活性化に寄与していきたい。

○今後、キーパーソンとなる人物や団体(この事業によって得られた成果物なども含む)

NPO法人美山里山舎、宮島振興会、明治国際医療大学、日吉山の家、日吉ダム、スプリングスひよし、南丹市美山エコツーリズム推進協議会、京都移住計画

地方創生交付金事業評価調査

細事業名	南丹市販路開拓支援事業	担当課	商工観光課
実施時期	H28.8～H29.3		
交付金名	地方創生加速化交付金	基本目標	1「しごと」を創出し働く場をつくる
事業費(千円)	3,848	施策の展開	(2)地域資源を活用した企業誘致と産業力強化
交付金充当額(千円)	3,468	想定される主な事業	③小規模企業等への支援

○事業の目指す方向

市内に立地する工業製品、食料加工品を製造する企業等が、国内外にて開催される展示会・見本市等への出展を後押しすることにより、新規取引先の獲得等、販路開拓に向けた支援を行う。

○事業概要

南丹市内の事業所が市内において製造、制作、加工、開発された製品及びサービス等を市外において、取引の新規開拓、拡大のために展示会等へ参加するのに必要な経費(出展料・装飾費・旅費等)の一部を支援

○実施状況

1事業者あたり年間2回まで申請可能
 同一事業者に対する補助金の交付は3か年度、合計100万円を限度
 28年度実績 延べ21件、16社 3,848千円

○KPI

KPI	指標値	実績値(H29.4現在)	達成度(100%)
支援件数	30	21	70%
新規取引先の獲得	8	91	1138%

○分析

(1)市民や社会のニーズを反映しているか

事業者の関心度は高く、本補助金を契機に初めて展示会に出展する企業もあり、販路開拓、新規顧客獲得に大いに効果があった。

(2)KPIに寄与しているか

寄与している

(3)KPIの達成状況

新規取引先の獲得は指標の10倍以上の成果があった

(4)整備された施設や成果物は活用されているか

これまで市内事業者の販路開拓を支援する事業がなく、昨年度から実施したところ、事業者の関心度は高く、本補助金を契機に初めて展示会に出展する企業もあり、販路開拓、新規顧客獲得に大いに効果があった。

(5)コスト削減や業務効率化に向けた工夫

(6)関連している事業との連携状況

○今後の展開

市内の事業者において本事業は大変好評であり、予算を上回る申請があった。本事業を契機として、展示会に初めて出展した企業もあり、販路開拓、新規顧客獲得支援のためにも、継続して支援を実施する。

○今後、キーパーソンとなる人物や団体(この事業によって得られた成果物なども含む)

地方創生交付金事業評価調書

細事業名	Uターン就職等支援事業	担当課	定住・企画戦略課
実施時期	H28.8～H29.3		
交付金名	地方創生加速化交付金	基本目標	2南丹市への人の流れを増幅させる
事業費(千円)	6,000	施策の展開	(1)定住・移住促進に向けた情報発信と支援
交付金充当額(千円)	6,000	想定される主な事業	②移住者への支援

○事業の目指す方向

亀岡市、南丹市及び京丹波町が連携し、3市町に「ひと」の流れを創出するため、広く若者に3市町の企業や魅力を発信し、都市部の若者には3市町や地域の企業に関心を持ってもらい、また地域の若者には、地元企業の魅力を認識させることで、地域企業への就職を促し、働く場を3市町につくることで若者の移住定住につなげる。

○事業概要

3市町で協議会を設置し、関係機関とも連携する中で、関西圏を中心とした若者と3市町の企業が交流するイベントの開催や地域企業の見学ツアーを実施し、3市町の企業と就職を希望する若者とのマッチングの支援を行った。また、地域企業や地域の魅力を盛り込んだ冊子を作成し、広く若者に情報発信を行った。

○実施状況

- ・企業の採用担当者向け採用力向上セミナーの開催 1回 参加企業19社(南丹市内8社)
- ・企業説明会の開催 4回 参加者数98名 参加企業数延べ64社(うち2会場で要望があれば面接を実施 4名)
- ・企業面接会の開催 1回 参加者数37名 参加企業数7社(南丹市内2社)
- ・企業見学ツアーの実施 2回 参加者数33名 見学企業数4社(南丹市内2社)
- ・企業と地域の魅力を掲載した冊子の作成 15,000部作成



○OKPI

KPI	指標値	実績値(H29.4現在)	達成度(100%)
事業利用による就職者数	15	0	0%
就職マッチング相談者数	100	172	172%

○分析

(1)市民や社会のニーズを反映しているか

市民や移住希望者からは、地域では働く場がないとの声が聞かれる一方で、企業の求人募集には応募がないという実態があるため、求人と求職のミスマッチの解消を目的としており、市民や社会のニーズに応えた取り組みである。

(2)KPIに寄与しているか

就職者の人数は、これから参加企業に調査を行うこととしており、現在つかめていないが、企業説明会等に参加した若者は指標値を超えており、KPIに大きく寄与している。

(3)KPIの達成状況

就職者の人数はこれから把握する予定であるが、就職のマッチングに至ったかは難しいと考えている。しかしながら、相談件数はKPIを達成しており、事業としては最低限度の成果があったと考えている。

(4)整備された施設や成果物は活用されているか

作成した冊子である「京都丹波ウォーカー」を関西圏を中心に大学等に配布し、キャリアセンターなどに配架している。また、掲載した企業にも配布し、企業のPRに活用されている。

(5)コスト削減や業務効率化に向けた工夫

亀岡市、南丹市及び京丹波町で設置した協議会事務について、南丹市で事務を一元化し、業務の効率化を図った。

(6)関連している事業との連携状況

京都丹波移住・定住促進協議会の取り組みの一環として事業を実施。

○今後の展開

現況の就職戦線は売手市場であり全体的に若者は大手志向となっている。また市内事業所は、人材確保が大きな問題であるが、それぞれの事業所で求める人材等が異なっている。就職支援事業を進めていくには、対象を絞り込んだ事業展開が効果的であると考えており、平成29年度は、企業のニーズ調査等南丹市独自の取り組みを実施する。また、京都丹波移住・定住促進協議会の一環として、引き続き3市町連携した取り組みも進めていく。

○今後、キーパーソンとなる人物や団体(この事業によって得られた成果物なども含む)

事業の参加企業、地域の大学・専門学校・高校等

地方創生交付金事業評価調査

細事業名	定住促進サポート事業	担当課	定住・企画戦略課
実施時期	H28.4～H29.3		
交付金名	地方創生加速化交付金	基本目標	2南丹市への人の流れを増幅させる
事業費(千円)	6,798	施策の展開	(1)定住・移住促進に向けた情報発信と支援
交付金充当額(千円)	6,798	想定される主な事業	③定住促進に向けた情報発信 ⑤定住促進サポートセンターの効果的運用

○事業の目指す方向

移住者の受入を積極的に進めるため、移住に関する情報の集約や情報発信、地域における相談・受け入れ窓口、また受け入れる地域を支援する窓口として、定住促進センターを設置し、定住促進を図る仕組みを構築する。

○事業概要

定住促進の拠点として定住促進サポートセンターを設置し、移住に関する情報収集や情報発信を行う。また本拠点施設や、様々なサポート人材が中心となり地域の定住促進意識の高揚を図り、移住者を受け入れる地域の仕組みや積極的な情報発信ができる仕組みを整えた。

○実施状況

- ・定住促進サポートセンターの運営
移住相談や空き家の流動化を主な業務とし、空き家案内も実施している。
移住相談数 124件
- ・集落の教科書 1地区(創意工夫により様々な情報ツールを作成)
美山町宮島地区

○KPI

KPI	指標値	実績値(H29.4現在)	達成度(100%)
空き家活用件数	6	11	183%
移住相談件数	100	124	124%

○分析

(1)市民や社会のニーズを反映しているか

南丹市は、都市近郊でありながら恵まれた自然環境が残っていることから「ちょうどよい田舎」として人気は高い現状がある。
本施設の運営により、定住促進の窓口が明確になり、情報収集や情報発信なども積極的に行うことができる。情報発信の強化により今後も移住相談は増加することが予想される。

(2)KPIに寄与しているか

定住促進の窓口が明確になり、情報収集や情報発信なども積極的に行うことで相談件数等の増加につながっている。

(3)KPIの達成状況

空き家バンクに登録された空き家の活用、移住希望者の相談がともに増加している。今後も相談者が空き家バンクを利用した移住につながるよう体制を強化していきたい。

(4)整備された施設や成果物は活用されているか

定住促進サポートセンターには職員2名を配置し、定住促進についての相談窓口として機能している。

(5)コスト削減や業務効率化に向けた工夫

移住定住のワンストップ窓口としての機能を有し、相談対応を効果的に行っている。

(6)関連している事業との連携状況

京都府指定の移住促進特別地域とともに、移住者の受け入れを積極的に行っていきたい。

○今後の展開

拠点施設として移住者を受け入れる入り口となるよう今後も対応する内容を充実させたい。
また、Webなどを活用し引き続きの積極的な情報発信と、地域における移住者を受け入れる仕組みづくりをさらに進めたい。

○今後、キーパーソンとなる人物や団体(この事業によって得られた成果物なども含む)

定住促進サポートセンター 地域おこし協力隊 集落支援員 京都移住コンシェルジュ 京の田舎ぐらしナビゲーター

地方創生交付金事業評価調書

細事業名	森の京都シティプロモーション事業	担当課	定住・企画戦略課
実施時期	H28.10～H29.3		
交付金名	地方創生加速化交付金	基本目標	2南丹市への人の流れを増幅させる
事業費(千円)	4,968	施策の展開	(1)定住・移住促進に向けた情報発信と支援
交付金充当額(千円)	4,968	想定される主な事業	③定住促進に向けた情報発信

○事業の目指す方向

南丹市がもつ魅力ある資源、様々な取り組みをメディア、ICT等を活用し戦略的にPR活動を行い、全国に対し南丹市のイメージや認知度、知名度を向上させることにより、交流人口の増加ひいては定住人口の増加につなげることを目的とする。

○事業概要

- ・南丹市シティプロモーション戦略の策定
- ・キャッチコピー、ロゴマークの作成
- ・映像による情報発信コンテンツの作成
- ・市職員、観光関係者等を対象とした情報発信研修

○実施状況

・「南丹市シティプロモーション戦略」策定
人々にとって魅力的なまちであること、「選ばれるまち」となるよう、市の魅力をターゲットに合わせてわかりやすい形でアピールし伝える3年間の戦略を策定

・キャッチコピー、ロゴマークの作成
シティプロモーションの取組を統一的・一貫性を持たせて進めるために、キャッチコピーを「Uターン Iターン なんとーん」と定め、これらを発信していくためのロゴマークを作成

・映像による情報発信コンテンツの作成
キャッチコピーをテーマに、市民の日常生活を通じて市の魅力を発信する動画を、「Uターン編」「Iターン編」「なんとーん編」の3本作成し、市HPやYouTubeの市公式動画チャンネルで発信

・シティプロモーションについて認識を深め、日々の業務の参考とするため、研修会を実施
研修内容:「シティプロモーションとは何か」、「地域の創意工夫による人を呼び込む仕掛けづくり」



○KPI

KPI	指標値	実績値(H29.4現在)	達成度(100%)
移住相談件数	100	124	124%

○分析

(1)市民や社会のニーズを反映しているか

人口減少社会の中、南丹市を持続的に発展させるために定住促進の取り組みが重要であり、魅力的で「選ばれるまち」となることが必要である。魅力ある資源や充実した施策を市内外にアピールし、ターゲットに合わせてわかりやすい形で伝えていくことが必要である。

(2)KPIに寄与しているか

南丹市のイメージや認知度、知名度を向上させることにより、交流人口の増加、移住先の候補とした相談につながっている。

(3)KPIの達成状況

各種定住促進施策とともに市のイメージ、認知度、知名度を向上させることで、市への移住相談の件数は増加している。

(4)整備された施設や成果物は活用されているか

「南丹市シティプロモーション戦略」に基づき、キャッチコピーやロゴマークを活用し、南丹市の周知に努め、作成した動画のYouTubeへの投稿など知名度向上を図っている。

(5)コスト削減や業務効率化に向けた工夫

(6)関連している事業との連携状況

各種定住促進施策とあわせて定住人口の増加につなげていく。

○今後の展開

28年度策定した「南丹市シティプロモーション戦略」に基づき、庁内一体となって推進するため、キャッチコピーやロゴマークを活用し、「南丹市」の周知に努め、作成した動画を様々な場面で放映して市の知名度向上を図りたい。

○今後、キーパーソンとなる人物や団体(この事業によって得られた成果物なども含む)

シティプロモーションの取り組みは、市民との協働により進めていくものでもあるので、目的や目指すものを共有し、全体的なものとして推進するとともに、地域づくりや地域振興、地域経済の活性化につなげていきたい。

地方創生交付金事業評価調査

細事業名	観光イベント振興事業	担当課	商工観光課
実施時期	H28.8		
交付金名	地方創生推進交付金	基本目標	2南丹市への人の流れを増幅させる
事業費(千円)	9,825	施策の展開	(2)観光・交流の拡大に向けた魅力の創出
交付金充当額(千円)	4,912	想定される主な事業	①観光まちづくりの推進

○事業の目指す方向

市民の地域への誇りや一体感を高め、観光客の集客による地域の活性化につなげるため、商工会や実行委員会が主催する観光イベントに対し支援を行う。

○事業概要

南丹市における代表的な夏のイベントとして花火大会、夏まつり、清流美山の鮎まつりを実施。お盆を故郷で過ごすため帰省した人々と、地元住民に楽しい夏のひと時を過ごす場を提供し、ふるさと”南丹”の良さを感じてもらうことにより、郷土愛を育み地域経済の推進及び活性化を図る。

○実施状況

- ①第70回京都南丹市花火大会 8月14日 来場者90,000人
- ②2016南丹そのべ夏まつり 8月27日 来場者5,500人
商工会員企業出展9社、飲食店15店 地元吹奏楽団の演奏と音楽イベント、地元商店街の夜市も同時開催。
- ③清流美山の鮎まつり 8月14日 来場者2,500人
「鮎つかみどり」はプレイイベントとして8/6.7にも開催。
飲食屋台と、餅つき・ビンゴゲーム、音楽イベントのステージショー、盆踊り、花火大会、抽選会

○KPI

KPI	指標値	実績値(H29.4現在)	達成度(100%)
観光入込客数	200万人	266万人	133%
外国人観光客の宿泊者数	2,000人	3,448人	172%

○分析

(1)市民や社会のニーズを反映しているか

都市住民と地域住民の交流を深め、夏の一日を楽しみながら伝統文化の保存と地域振興を図る。

(2)KPIに寄与しているか

寄与している

(3)KPIの達成状況

いずれも達成

(4)整備された施設や成果物は活用されているか

(5)コスト削減や業務効率化に向けた工夫

(6)関連している事業との連携状況

○今後の展開

市外からの来場者も多いので、継続して実施する。

○今後、キーパーソンとなる人物や団体(この事業によって得られた成果物なども含む)

南丹市商工会、実行委員会

地方創生交付金事業評価調査

細事業名	観光宣伝事業	担当課	商工観光課
実施時期	H28.4～H29.3		
交付金名	地方創生推進交付金	基本目標	2南丹市への人の流れを増幅させる
事業費(千円)	3,094	施策の展開	(2)観光・交流の拡大に向けた魅力の創出
交付金充当額(千円)	1,465	想定される主な事業	①観光まちづくりの推進

○事業の目指す方向

南丹市の観光によるまちづくりを推進するため、オール南丹の観光ネットワークを組織し、観光まちづくり戦略にもとづき活動を行う。委員会による観光まちづくり事業を推進するため、国内外に観光資源のプロモーションを行うことにより、南丹市の観光ブランドの向上を図る。

また、南丹市道の駅連絡協議会が発足し、連携による道の駅の情報発信の強化、地域振興と観光誘客の両面から連携をいかした観光まちづくりを実施し、道の駅からの情報発信の強化、観光誘客の強化を行う。

○事業概要

- (1)国内外への南丹市の観光プロモーション
観光情報の発信、プロモーション活動の実施。観光展等への参加
- (2)観光まちづくり研修の実施
観光マーケティング、インバウンド対応等
- (3)「森の京都」による観光振興事業の実施
京都府の「森の京都」推進と連携した観光振興事業の実施
- (4)道の駅便り作成による情報発信

○実施状況

- ①国内(京都・大阪・東京)での観光啓発キャンペーン、プロモーション
- ②海外(台湾・タイ)でのプロモーション
- ③印刷物(多言語観光パンフレットの翻訳、JR車両広告デザイン)の作成
- ④視察・研修、民泊、ファムトリップの受け入れ
- ⑤マスコミ・メディア対応
- ⑥プロモーション用備品の作成
- ⑦道の駅便りの作成

○OKPI

KPI	指標値	実績値(H29.4現在)	達成度(100%)
観光入込客数	200万人	266万人	133%
外国人観光客の宿泊者数	2,000人	3,448人	172%

○分析

- (1)市民や社会のニーズを反映しているか

観光によるまちづくりを推進している

- (2)KPIに寄与しているか

寄与している

- (3)KPIの達成状況

いずれも達成

- (4)整備された施設や成果物は活用されているか

- (5)コスト削減や業務効率化に向けた工夫

- (6)関連している事業との連携状況

京都府の「森の京都」推進と連携した観光振興事業の実施

○今後の展開

オール南丹の観光ネットワークを組織し、観光まちづくり戦略にもとづき活動を続ける

○今後、キーパーソンとなる人物や団体(この事業によって得られた成果物なども含む)

各観光協会、美山観光まちづくり協会

地方創生交付金事業評価調査

細事業名	観光宣伝事業	担当課	商工観光課
実施時期	H28.7～H29.3		
交付金名	地方創生加速化交付金	基本目標	2南丹市への人の流れを増幅させる
事業費(千円)	1,512	施策の展開	(2)観光・交流の拡大に向けた魅力の創出
交付金充当額(千円)	1,512	想定される主な事業	①観光まちづくりの推進

○事業の目指す方向

海外を含む観光客等の利便性を向上させるため、南丹市全域の観光ポイントをわかりやすく多言語(日本語、英語、中国語)で紹介するとともに市内の観光地を広くPRする。

○事業概要

多言語(日本語、英語、中国語)観光看板設置3か所 JR日吉駅、スプリングスひよし、八木支所

○実施状況

JR日吉駅、スプリングスひよし 工期 H28.7.27～28.8.31
八木支所 工期 H29.3.6～28.3.22

○KPI

KPI	指標値	実績値(H29.4現在)	達成度(100%)
観光入込客数	200万人	266万人	133%

○分析

(1)市民や社会のニーズを反映しているか

多言語で市全域の観光ポイントを紹介することで、外国人観光客に情報発信できた。

(2)KPIに寄与しているか

寄与している

(3)KPIの達成状況

達成している

(4)整備された施設や成果物は活用されているか

大いに活用されている

(5)コスト削減や業務効率化に向けた工夫

(6)関連している事業との連携状況

○今後の展開

インバウンドの増加をはじめとした時代に応じた誘客、おもてなしのための受け入れ体制の整備や、市の魅力等を情報発信する。交通や宿泊の利便性を図ることにより、観光客を誘客し、イベントの実施により観光入込客数の増加と、市の農林産物並びに特産品等売り込み観光消費額の増加を図る。

○今後、キーパーソンとなる人物や団体(この事業によって得られた成果物なども含む)

美山観光まちづくり協会(美山DMO)、南丹市観光まちづくり実行委員会、各観光協会のネットワーク

地方創生交付金事業評価調査

細事業名	観光協会事業	担当課	商工観光課
実施時期	H28.4～H29.3		
交付金名	地方創生推進交付金	基本目標	2南丹市への人の流れを増幅させる
事業費(千円)	7,035	施策の展開	(2)観光・交流の拡大に向けた魅力の創出
交付金充当額(千円)	3,495	想定される主な事業	①観光まちづくりの推進

○事業の目指す方向

観光地としての南丹市のレベルアップと知名度の向上を図るため、市内の観光協会の運営及び事業実施を支援する

○事業概要

るり溪観光協会・八木町観光協会・日吉町観光協会・美山町観光協会に補助金を交付

○実施状況

るり溪観光協会・・・るり溪の美しい自然を観光客に宣伝し集客を図る、るり溪の清掃・管理及び観光宣伝。
 八木町観光協会・・・八木地域の活性化と観光振興を図るとともに、観光協会事務所を開設、ホームページの作成により積極的な情報発信を行う。
 日吉町観光協会・・・ひよし夏祭り花火大会、イベントでの物産品販売と観光宣伝。日吉地域の活性化と観光振興を図る。
 美山町観光協会・・・観光協会事務所での観光案内業務を中心に、マスコミや旅行会社へ情報発信。宣伝啓発や観光目的作りのための写真コンテストを実施。新たな観光魅力の提案としてトレイルコースの現地踏査を継続し、コースの整備やガイド養成。

○KPI

KPI	指標値	実績値(H29.4現在)	達成度(100%)
観光入込客数	200万人	266万人	133%
外国人観光客の宿泊者数	2,000人	3,448人	172%

○分析

(1)市民や社会のニーズを反映しているか

観光によるまちづくりを推進している

(2)KPIに寄与しているか

寄与している

(3)KPIの達成状況

いずれも達成

(4)整備された施設や成果物は活用されているか

(5)コスト削減や業務効率化に向けた工夫

(6)関連している事業との連携状況

観光宣伝事業

○今後の展開

南丹市のレベルアップと知名度の向上を図るため、市内の観光協会の運営及び事業実施を支援を続ける

○今後、キーパーソンとなる人物や団体(この事業によって得られた成果物なども含む)

各観光協会、美山観光まちづくり協会

地方創生交付金事業評価調査

細事業名	観光動態調査事業	担当課	商工観光課
実施時期	H29.1～H29.3		
交付金名	地方創生推進交付金	基本目標	2南丹市への人の流れを増幅させる
事業費(千円)	27,810	施策の展開	(2)観光・交流の拡大に向けた魅力の創出
交付金充当額(千円)	13,905	想定される主な事業	①観光まちづくりの推進

○事業の目指す方向

本市観光産業の大きな課題である冬季の観光客の減少、年間を通した観光客の消費額の低迷を改善させる方策の基礎資料となるデータの収集および分析を目的とする。

○事業概要

市内への観光客の居住地・性別・年齢と市内における動態の把握を行うため、業務委託により、スマートフォン向けアプリの開発、観光客誘致のための周遊イベント等の企画、収集データの分析を行い、観光における現状把握と観光客誘致に向けた有効なイベントを実施する

○実施状況

ICT技術を活用し、観光客の動態や購買等の状況を調査する。

①スマートフォン向けアプリの開発

②観光客の動態調査

③周遊イベントを企画し観光客を誘致

④観光客の動態を分析

3月4～12日まで 延べ800人が参加

そのうち3月5日には京都駅から5台の大型バスで200人が謎解きゲームに参加

○KPI

KPI	指標値	実績値(H29.4現在)	達成度(100%)
観光入込客数	200万人	266万人	133%

○分析

(1)市民や社会のニーズを反映しているか

冬季の観光客の減少、年間を通した観光客の消費額の低迷を改善させる方策の基礎資料となるデータの収集および分析ができた

(2)KPIに寄与しているか

寄与している

(3)KPIの達成状況

いずれも達成した

(4)整備された施設や成果物は活用されているか

大いに活用されている

(5)コスト削減や業務効率化に向けた工夫

28年度開発の観光アプリを活用し、誘客・集客につなげる

(6)関連している事業との連携状況

観光イベント振興事業、観光宣伝事業

○今後の展開

南丹市内で開催の各種イベントの広報・周知を図り、南丹市の認知度の向上と、誘客・集客につなげる。

○今後、キーパーソンとなる人物や団体(この事業によって得られた成果物なども含む)

各観光協会、美山観光まちづくり協会

地方創生交付金事業評価調査

細事業名	観光拠点整備事業	担当課	商工観光課
実施時期	H28.5～H28.6		
交付金名	地方創生加速化交付金	基本目標	2南丹市への人の流れを増幅させる
事業費(千円)	4,320	施策の展開	(2)観光・交流の拡大に向けた魅力の創出
交付金充当額(千円)	4,320	想定される主な事業	①観光まちづくりの推進

○事業の目指す方向

設置後20年を経過し日吉山の家の石油ボイラー給湯器及び浴場用濾過システムが故障。緊急的に手動で温度調節を行い、また、近隣の温泉施設へ来客者を送迎していたが、浴場は日常的に使用する施設であり、営業に支障をきたすため修理を行う。

○事業概要

石油ボイラー給湯器及び浴場用濾過システムの改修により、快適な環境を維持し、利用者の増加につなげる。

○実施状況

石油ボイラー給湯器、浴場用濾過システムの改修

○KPI

KPI	指標値	実績値(H29.4現在)	達成度(100%)
観光入込客数	200万人	266万人	133%
外国人観光客の宿泊者数	2,000人	3,448人	172%

○分析

(1)市民や社会のニーズを反映しているか

快適な環境を維持し、利用者の増加につなげる

(2)KPIに寄与しているか

快適な環境を維持し、利用者の増加につなげる

(3)KPIの達成状況

いずれも達成した

(4)整備された施設や成果物は活用されているか

十分活用されている。

(5)コスト削減や業務効率化に向けた工夫

(6)関連している事業との連携状況

観光宣伝事業で、施設を紹介、誘客する

○今後の展開

定期的に施設の機器を点検し、傷みが軽いうちに修繕する。大きな機具は計画的に点検修理を行う。

○今後、キーパーソンとなる人物や団体(この事業によって得られた成果物なども含む)

地方創生交付金事業評価調査

細事業名	山陰本線南丹市広告宣伝事業	担当課	地域振興課
実施時期	H28.6～H29.3		
交付金名	地方創生推進交付金	基本目標	2南丹市への人の流れを増幅させる
事業費(千円)	5,293	施策の展開	(2)観光・交流の拡大に向けた魅力の創出
交付金充当額(千円)	2,646	想定される主な事業	①観光まちづくりの推進

○事業の目指す方向

JR園部駅以北の複線化を実現するため、JR山陰本線の利用者増加に向けた取り組みが必要なことから、JRの広告媒体を活用して全国に向けて南丹市をPRすることでJRの利用促進を図る

○事業概要

JR車両内での額面広告掲出・大阪駅構内へのフラッグ広告掲出(夏季及び冬季)

○実施状況

H28年度夏季・冬季に右記のとおり広告掲出



○KPI

KPI	指標値	実績値(H29.4現在)	達成度(100%)
観光入込客数	200万人	266万人	133%

○分析

(1)市民や社会のニーズを反映しているか

交流人口増加に寄与している

(2)KPIに寄与しているか

交流人口増加に寄与している

(3)KPIの達成状況

観光入込客数の指標を達成した

(4)整備された施設や成果物は活用されているか

過去の広告物について、JR西日本コミュニケーションズ作成のカタログに掲載いただいている。また、今後事業の経過をHPIに掲載予定。

(5)コスト削減や業務効率化に向けた工夫

事業実施の中で、なるべく安価でより多くの広告メニューを掲載可能なように委託業者と協議している。

(6)関連している事業との連携状況

特に無し

○今後の展開

かやぶきの里だけでなく、南丹市全市的なPRをおこなうことにより、交流人口の増加を目指す。

○今後、キーパーソンとなる人物や団体(この事業によって得られた成果物なども含む)

JR西日本コミュニケーションズ

地方創生交付金事業評価調査

細事業名	各種イベント等開催事業(ひよし水の杜フェスタ)	担当課	日吉支所地域推進課
実施時期	H28.9		
交付金名	地方創生推進交付金	基本目標	2南丹市への人の流れを増幅させる
事業費(千円)	1,959	施策の展開	(2)観光・交流の拡大に向けた魅力の創出
交付金充当額(千円)	979	想定される主な事業	①観光まちづくりの推進

○事業の目指す方向

日吉地域の各種団体により実行委員会を組織し、ステージイベントや模擬店、行政のPRコーナー等を設け、市内・市外からの多数の来場者により、観光振興・商工振興・地域振興を図る。

○事業概要

日吉地域の各種団体により実行委員会を組織し、9月18日に「ひよし水の杜フェスタ2016」In「森の京都博第40回全国育樹祭開催記念」をスプリングスパークで開催する。

当日は、森の京都博 第40回全国育樹祭開催記念公演・ステージイベントや模擬店、PRコーナー、フリーマーケット等を行い市内及び市外から多数の来場者により、観光振興や商工振興、地域振興を図るとともに、森の京都博、全国育樹祭のPRを行う。

○実施状況

(当日大雨注意報・雷注意報の発令により中止)

○KPI

KPI	指標値	実績値(H29.4現在)	達成度(100%)
観光入込客数	200万人	266万人	133%
外国人観光客の宿泊者数	2,000人	3,448人	172%

○分析

(1)市民や社会のニーズを反映しているか

市民に定着したイベントとして30年以上続いており、市民のニーズが高い。

(2)KPIに寄与しているか

(3)KPIの達成状況

(4)整備された施設や成果物は活用されているか

(5)コスト削減や業務効率化に向けた工夫

イベントの出演者については、地元関係の団体に依頼する事によりイベントの出演料を削減している。

(6)関連している事業との連携状況

日吉町文化祭展示を、近接の体育館で同日に開催している。また、隔年で開催している南丹船井交通安全大会を共催している。

○今後の展開

市民に定着したイベントであり、関係団体と内容を検討し市内・市外から、より多くの来場者を迎える事により、観光振興・商工振興・地域振興を図る。

○今後、キーパーソンとなる人物や団体(この事業によって得られた成果物なども含む)

現状は、事務局として行政が主体となって開催しているが、今後については観光協会・商工会等へ移行を検討

地方創生交付金事業評価調査

細事業名	各種イベント等開催事業(美山ふるさと祭)	担当課	美山支所地域推進課
実施時期	H28.11		
交付金名	地方創生推進交付金	基本目標	2南丹市への人の流れを増幅させる
事業費(千円)	945	施策の展開	(2)観光・交流の拡大に向けた魅力の創出
交付金充当額(千円)	472	想定される主な事業	①観光まちづくりの推進

○事業の目指す方向

広く市民の参加・参画によって交流を深め、健やかな暮らしと人づくりを目指し、地域の活性化を図ることを目的とする。
また、美山町の豊かな自然や森の恵みを活かした食や伝統文化を体感できる「森の京都博」として開催し、国定公園誕生後の「美山かやぶきの里ワンデーマーチ」との一体感の醸成を図り、いっそうの交流拡大を目指す。

○事業概要

1. ステージ企画 ステージショー、お楽しみ福引大会、表彰式
2. 展示・体験コーナー企画 ふれあいコーナー、文化作品等展示、農林産物品評会
3. テント販売企画 特産品・加工食品等販売コーナー、展示・相談コーナー、フリーマーケット

○実施状況

- ・ステージ企画は、市民参加ステージ、やしろ優ステージ、お楽しみ福引大会を開催した。
 - ・展示・体験コーナー企画は、ふれあいコーナー、文化作品等展示、農林産物品評会を開催した。
 - ・テント販売企画は、特産品・加工食品等販売コーナー、展示・相談コーナー、フリーマーケットを開催した。
- ・会場は大変盛況で活気あるイベントであった。(平成28年度参加人員 1,500人)
また、第17回美山かやぶきの里ワンデーマーチとの同時開催により市内外より多くの方が来場された。

○KPI

KPI	指標値	実績値(H29.4現在)	達成度(100%)
観光入込客数	200万人	266万人	133%
外国人観光客の宿泊者数	2,000人	3,448人	172%

○分析

(1)市民や社会のニーズを反映しているか

旧町時代から連綿と継続されてきた事業であり、地域のイベントとして定番となっている。
また、ステージショーやフリーマーケット、展示等に地域住民・事業所が参加することにより、交流の場や活動の成果発表の場を提供することにもつながっている。

(2)KPIに寄与しているか

かやぶきの里ワンデーマーチ参加者へのふるまいとして美山の特産物を提供することで、地域住民とのふれあいのなかで地域の魅力を発信し、野菜や加工品などの消費喚起、あわせてリピーターの獲得につながったものと考えられる。

(3)KPIの達成状況

森の京都記念グッズの配布や有名タレントのステージショーを行ったことにより、町外からの来場者も多くみられ、交流人口の拡大につながった。

(4)整備された施設や成果物は活用されているか

(5)コスト削減や業務効率化に向けた工夫

関係団体の実行委員会への参加による事業の円滑化、物品借用による経費削減に努めている。

(6)関連している事業との連携状況

美山かやぶきの里ワンデーマーチには市内外より多くの参加者がある。同イベントとの同時開催により、市外からの集客力の向上を図っている。

○今後の展開

平成28年度は「森の京都」「京都丹波高原国定公園指定」などの要因により、南丹市美山町に対する注目度が高まった。今後もこれらを活かした事業展開により、よりいっそうの地域の活性化と観光客の呼び込みを図る。

○今後、キーパーソンとなる人物や団体(この事業によって得られた成果物なども含む)

事業の活性化のため、今後も美山かやぶきの里ワンデーマーチ実行委員会と連携が必要である。

地方創生交付金事業評価調書

細事業名	スポーツ拠点づくり推進事業(京都丹波トライアスロン大会)	担当課	地域振興課
実施時期	H28.8		
交付金名	地方創生推進交付金	基本目標	2南丹市への人の流れを増幅させる
事業費(千円)	500	施策の展開	(2)観光・交流の拡大に向けた魅力の創出
交付金充当額(千円)	250	想定される主な事業	③エコツーリズム等の推進

○事業の目指す方向

3種類の競技を組み合わせた健康に良いスポーツとして、多くの人に浸透し、認知され女性や教育機関の関心も年々高まり、現在日本のトライアスロン人口は30万人以上となっている。南丹市の豊かな自然を満喫できるコース設定を設定することで、スポーツ観光振興の1つの事業としての定着を目指す。

○事業概要

8月28日に南丹市八木地域を会場として「第2回京都丹波トライアスロン大会in南丹」を、京都丹波トライアスロン大会実行委員会の主催により、スーパースプリントディスタンス・スーパースプリントリレー・スプリントディスタンス・スタンダードディスタンスのカテゴリで開催(8月27日選手受付・おもてなしイベント・開会式・協議説明会)。

○実施状況

カテゴリ別参加者

スーパースプリント(一般) 25名
 スーパースプリント(高校生) 1名
 スーパースプリント(中学生) 16名
 スプリント(一般) 107名
 スプリント(高校生) 10名
 スタンダード 336名
 リレー 6組



○KPI

KPI	指標値	実績値(H29.4現在)	達成度(100%)
観光入込客数	200万人	266万人	133%
外国人観光客の宿泊者数	2,000人	3,448人	172%

○分析

(1)市民や社会のニーズを反映しているか

社会の健康志向の高まりに応じた取り組みでありニーズを反映している。

(2)KPIに寄与しているか

今回で2回目の開催であり、それまでには無かった新たな取り組みであるがKPIに寄与している。

(3)KPIの達成状況

(4)整備された施設や成果物は活用されているか

全国的なスポーツの大会を間近で見ることにより、ひたむきにゴールを目指し努力をする選手から、体を動かすことの素晴らしさを知り、老若男女を問わず体を動かす機会づくりに寄与したと考える。

(5)コスト削減や業務効率化に向けた工夫

特になし

(6)関連している事業との連携状況

特になし

○今後の展開

参加者の安全確保のためにも、現状の参加者数がほぼ上限であるため、関連団体との連携を密にし、応援者の増加や参加者による南丹市内での経済波及効果につながる取り組みを行いたい。

○今後、キーパーソンとなる人物や団体(この事業によって得られた成果物なども含む)

一般社団法人森の京都地域振興社
 南丹市商工会

地方創生交付金事業評価調査

細事業名	スポーツ拠点づくり推進事業(美山サイクルロード)	担当課	美山支所地域推進課
実施時期	H28.5		
交付金名	地方創生推進交付金	基本目標	2南丹市への人の流れを増幅させる
事業費(千円)	315	施策の展開	(2)観光・交流の拡大に向けた魅力の創出
交付金充当額(千円)	157	想定される主な事業	③エコツーリズム等の推進

○事業の目指す方向

公道を使用した自転車ロードレース大会を南丹市美山町地域で開催することにより、自転車競技の普及と理解と深め、美山町地域が自転車競技の拠点となるようにする。

○事業概要

平成28年5月21日～22日に開催される京都美山サイクルロードレース2016の主催団体である、美山サイクルロード実行委員会に対し、補助金を交付し、自転車競技の普及と南丹市美山地域の活性化に寄与する。

○実施状況

平成28年5月21日(鶴ヶ岡コース タイムトライアル)
 個人タイムトライアル 83名
 トロフェバラッキ 44名
 平成28年5月22日(九鬼ヶ坂コース)
 九鬼ヶ坂コース1周の部 247名
 2周の部 249名
 4周の部 246名
 7周の部 234名
 長谷ショートコース(小学生、初心者) 62名 合計 1,165名出場

○KPI

KPI	指標値	実績値(H29.4現在)	達成度(100%)
観光入込客数	200万人	266万人	133%
外国人観光客の宿泊者数	2,000人	3,448人	172%

○分析

(1)市民や社会のニーズを反映しているか

国内で最も長く開催されている公道を使用した自転車ロードレースであり、自然豊かな南丹市美山町地域を走行できるとして、高い人気があり、1,100名を超える出場者がある。

(2)KPIに寄与しているか

大会期間には、1,100名を超える出場者があり観光振興に寄与している。
 また、近年盛り上がりを見せる自転車ブームにより、年間を通じて自転車での観光客が多くある。

(3)KPIの達成状況

(4)整備された施設や成果物は活用されているか

(5)コスト削減や業務効率化に向けた工夫

ボランティアスタッフの募集や競技関係者及び地域住民の運営委員への参加により、運営経費の削減に努めている。

(6)関連している事業との連携状況

直接的な連携は行っていないが、南丹市美山町地域で実施されるスポーツイベントとは一体性を持って事業を実施している。

○今後の展開

近年の自転車ブームにより参加者は増加傾向にあるため、安全面の確保が難しくなっている。
 継続して大会を実施できるよう、大会の運営方法を見直す必要がある。

○今後、キーパーソンとなる人物や団体(この事業によって得られた成果物なども含む)

美山町地域の春季のスポーツイベントとして定着しており、その実行委員会には長年大会を継続できる組織力がある。

地方創生交付金事業評価調査

細事業名	スポーツ拠点づくり推進事業(ワンデーマーチ)	担当課	美山支所地域推進課
実施時期	H28.11		
交付金名	地方創生推進交付金	基本目標	2南丹市への人の流れを増幅させる
事業費(千円)	300	施策の展開	(2)観光・交流の拡大に向けた魅力の創出
交付金充当額(千円)	150	想定される主な事業	③エコツーリズム等の推進

○事業の目指す方向

1. かやぶき集落をはじめ野々村仁清生誕の地など南丹市美山のイメージを高める
2. 都市住民とのふれあい・交流の場を大切に、リピーター層を拡大し経済活動につなげることを目的としている。
3. 市民の健康づくり推進の一助として、ウォーキングを通じて健康な体作りの取り組みとする。

○事業概要

18キロコース(重伝建地区・自然文化村まで)
 12キロコース(野々村仁清生誕地・大野ダム湖)
 3キロコース(かやぶき美術館の屋根裏の学習も出来るゆったり)

○実施状況

1. 日 時 平成28年11月3日(祝・木)スタート地点 宮島小学校
 参加者664名 ・18キロコース
 ・12キロコース
 ・3キロコース
2. 第15回大会から実施している「健康づくり教室」を盛り込み実施した。
3. 田舎の体験として、郷土食の良さを知っていただくイベントも実施した。
4. 参加者に地元米・野菜が当たる抽選会や記念バッジ等を用意し実施した。
5. みそ汁やぜんざいなどのふるまいを地域振興会の協力を得て行う。

○KPI

KPI	指標値	実績値(H29.4現在)	達成度(100%)
観光入込客数	200万人	266万人	133%
外国人観光客の宿泊者数	2,000人	3,448人	172%

○分析

(1)市民や社会のニーズを反映しているか

地域振興も含め、今後も南丹市美山町のPRと共に、田舎に訪れて頂くことを都市住民にアピールしワンデーマーチをきっかけに都市との交流を更に深め、他の事業にも波及していくようになればと考える。

(2)KPIに寄与しているか

参加者:664名
 参加者は、愛知県、岐阜県、福井県、等からの参加者もあり、多くは大阪府、兵庫県、滋賀県、近隣は南丹市内をはじめ京都市、舞鶴市、綾部市、京丹後市、福知山市等。

(3)KPIの達成状況

(4)整備された施設や成果物は活用されているか

(5)コスト削減や業務効率化に向けた工夫

立哨員やおもてなしには多くのスタッフが必要であり、コースにあたる集落では区をあげて農道の草刈りや整備をして頂いたり、休憩場所として公民館を提供頂いたり、多くの住民の理解のうえで開催し、ている。今後ボランティアスタッフを募集したりして運営経費の削減に努めている。

(6)関連している事業との連携状況

同日開催の美山ふるさと祭りと連携して行う。

○今後の展開

都市との農村交流は、重要課題であり、ワンデーマーチもその大きな取り組みのひとつである。啓発も、京都・滋賀をはじめ近隣のウォーキング会場へ出向き参加を呼び掛けた事で、昨年より参加者をふやすことができた。参加者は、高齢化の傾向であるが、今後も全国各地から幅広く参加頂ける体制が必要である。

○今後、キーパーソンとなる人物や団体(この事業によって得られた成果物なども含む)

美山歩こう会や美山スポーツクラブの会員及び各地域振興会を中心とした地域振興部員

地方創生交付金事業評価調査

細事業名	産前・産後サポート事業	担当課	子育て支援課
実施時期	H28.10～H29.3		
交付金名	地方創生推進交付金	基本目標	3若い世代の夢をかなえる
事業費(千円)	2,200	施策の展開	(1)結婚・出産・子育ての夢をかなえる支援
交付金充当額(千円)	1,100	想定される主な事業	②子育ての支援

○事業の目指す方向

産前・産後期の訪問相談支援を妊娠から子育てまでの包括支援の出発点とし、児童虐待の発生を予防し、安心して産み育てることができる社会の構築を目指す。

○事業概要

妊産婦が抱える妊娠・出産や子育てに関する悩みについて、保健師や看護師等の専門家と子育て経験者及びシニア世代等の相談しやすい「話し相手」による相談支援と家事支援、育児支援の訪問支援サービスを行うことにより、家庭や地域での妊産婦の孤立感の解消と家族の精神的・身体的負担の軽減を図る。
本事業をNPO法人に委託し、民間と行政の協働で取り組む。

○実施状況

・妊婦訪問 申込者数 52名 訪問者数 5名
・訪問支援サービス 問い合わせ者数 4名 利用者数 2名
・母子手帳交付時、市役所職員(保健医療課保健師、各支所窓口職員)が妊婦訪問について案内、説明をし、承諾が得られた妊婦に対して、事業受託者のNPO法人グローアップの専門員が対象妊婦に架電、聞き取りと訪問日程調整を行い、専門員が家庭訪問(妊婦訪問)し、対象者の悩みや心身の不調に関する相談支援を行った。妊娠届時のほか、他の事業(子育てつどいの広場や子育て相談)で母の相談を受けるなどし、訪問支援サービスを実施した。

○KPI

KPI	指標値	実績値(H29.4現在)	達成度(100%)
妊娠届数に対する訪問人数の割合(%)	20	5	25%

○分析

(1)市民や社会のニーズを反映しているか

妊娠届出者の68%が妊婦訪問を希望している。

(2)KPIに寄与しているか

年度後半からの事業実施であったので、訪問承諾は得られていても、実際の訪問日程は年度をまたぐ場合があり、今年度の達成度は低くなった。

(3)KPIの達成状況

妊娠届出者に対する訪問承諾は70%近く得られているが、出産予定の多くが年度をまたぎ5月以降であったため、実際の訪問に至らなかった方が多くあった。

(4)整備された施設や成果物は活用されているか

不安や課題を抱える方について、今後の支援について関係機関と共有が図れた。妊婦訪問、サービス提供により対象者の負担軽減が図れた。

(5)コスト削減や業務効率化に向けた工夫

妊娠届を受け付ける担当課と訪問相談支援の実際を担うNPO法人との情報共有のため月一回の打合せを開催し、主管課である当課がコーディネートし、円滑な実施に努めた。

(6)関連している事業との連携状況

「子育てつどいの広場事業」や「子育て相談」の利用者からニーズを把握し、支援につながった。

○今後の展開

妊娠届出時の案内の他、様々な事業や妊婦や母親が集つ場を通して事業の周知を図り、訪問承諾を待られるよう努め、妊娠届出数に対する妊婦訪問の実数を高める。昨年度下半期に妊娠届を出された方の出産を迎えるため、産後の訪問支援サービスをニーズを汲み取り実施していく。この事業を子育て世代包括支援の仕組みに着実に位置付けていく。

○今後、キーパーソンとなる人物や団体(この事業によって得られた成果物なども含む)

本事業の相談支援、訪問支援を担える者は、専門的な知識を要するため保健師等の専門職や京都府主催の養成講座を修了していることが必要となる。行政職員の保健師のほかでは、NPO法人グローアップにおいて養成講座修了者を確保されている。

地方創生交付金事業評価調査

細事業名	食育推進事業	担当課	保健医療課
実施時期	H28.11～H29.3		
交付金名	地方創生推進交付金	基本目標	3若い世代の夢をかなえる
事業費(千円)	300	施策の展開	(1)結婚・出産・子育ての夢をかなえる支援
交付金充当額(千円)	150	想定される主な事業	②子育ての支援

○事業の目指す方向

女性の社会参画の推進に向けて取組みを進めている。南丹市食生活改善推進員協議会に事業を委託し、子育て世代の食育推進と子どもの生きる力の育成のため、食育推進事業を行う。

○事業概要

- ・食生活改善推進員協議会が「弁当の日」の実施校に出向き、バランス食の授業支援と調理実習を行う
- ・「弁当の日」の提唱者である竹下和男氏の講演会の実施

○実施状況

- ・「弁当の日」の実施校(4校)に出向き、バランス食の授業支援と調理実習
 - ◎八木東小学校(八木支部) 授業支援と調理実習 5回
 - ◎園部第2小学校(園部支部) 授業支援と調理実習5回
 - ◎殿田小学校(日吉支部) 授業支援と調理実習5回
 - ◎美山小学校(美山支部) 授業支援と調理実習5回
- ・「弁当の日」の提唱者である竹下和男氏の講演会の実施
「子どもを台所に立たせよう」と題し、H29.2.12実施
児童、保護者、地域の方々、食生活改善推進員を対象に実施 61人参加

○KPI

KPI	指標値	実績値(H29.4現在)	達成度(100%)
女性起業者数	5	2	40%

○分析

(1)市民や社会のニーズを反映しているか

日常生活が省力化され、便利な時代になり、大人自身が食品の選定能力や調理力の減退が懸念されてきている。その中で子どもたちは、家庭で調理を身に付けることなく大人になっていく心配がある。その中で、バランス食の授業の手伝い、調理実習を食生活改善推進員が学校に出向き支援することで生きる力の育成につながる。

(2)KPIに寄与しているか

女性の社会進出による家庭教育への弊害の除去や緩和に間接的に寄与している。

(3)KPIの達成状況

事業を通じて、効果はあると考えるが、単年での目にみえる効果は難しい。

(4)整備された施設や成果物は活用されているか

実施した学校でのアンケート及び講演会のアンケートは学校や健康づくり推進協議会で公表・分析し、活用している。

(5)コスト削減や業務効率化に向けた工夫

学校の畑で採れた野菜等を利用し、調理実習の材料費を削減した。それぞれの地域の食生活改善推進員に応援を頂き地元の小学校の支援を行った。

(6)関連している事業との連携状況

○今後の展開

今後も小学校でのバランス食の授業支援、調理実習を行っていききたい。今支援している小学校は4校であるが、他の小学校にも広めていききたい。

○今後、キーパーソンとなる人物や団体(この事業によって得られた成果物なども含む)

この事業のアンケートをとおして、学校では食生活改善推進員の支援を期待して頂いていることが分かった。今後会員の養成のための呼びかけに力を入れ、活動を活発化することで、子どもたちの生きる力の育成や食育推進につなげていきたい。

地方創生交付金事業評価調査

細事業名	実践型人材育成事業【新商品開発】	担当課	定住・企画戦略課
実施時期	H28.10～H29.3		
交付金名	地方創生推進交付金	基本目標	3若い世代の夢をかなえる
事業費(千円)	9,000	施策の展開	(1)結婚・出産・子育ての夢をかなえる支援
交付金充当額(千円)	4,500	想定される主な事業	④女性の活躍の場を広げる
		基本目標	1「しごと」を創出し働く場をつくる
		施策の展開	(1)新たな「しごと」にチャレンジする就業・起業支援
		想定される主な事業	①創業・起業の支援

○事業の目指す方向

本市における今後のしごとづくりにおいて、さらなる展開が期待される観光などの産業をテーマとして、主に女性を対象に、道の駅等の特産品開発などについて、商品開発からマーケティングまでのプロセスを含む実践的な研修プログラムを実施することで、専門的知識を有する人材の育成を目的とする。

○事業概要

道の駅等の特産品開発をテーマとし、マーケティングから商品開発までのプロセスを実践型研修として実施し、商品開発における専門的知識の習得などを通し、人材育成を行うもの。

○実施状況

研修受講者21名、研修9回、フォローアップミーティング2回、現状調査4日実施
 ・道の駅美山ふれあい広場にて4日間の現状調査
 ・ターゲット顧客のニーズ把握による商品企画、マーケットのニーズに基づいた商品・サービスのコンセプトの検討
 ・ターゲットとなる顧客のニーズに基づいた商品・サービスのコンセプトから、仕様を決定し、試作品を開発
 ・道の駅美山ふれあい広場にてユーザーテストを実施
 ・ユーザーテスト後、消費者の声から商品・サービスの改善、販売方法の改善
 ・研修後の受講者の意向に対する助言



○KPI

KPI	指標値	実績値(H29.4現在)	達成度(100%)
女性起業者数	5	2	40%

○分析

(1)市民や社会のニーズを反映しているか

市が実施した調査では地域活性化のために力を入れるべき取り組みとして「女性の活躍推進、若者の人材育成」、就学前の児童の母親に対するニーズ調査でも「フルタイムへの転換希望」など、女性の活躍の場を創出するとともに、女性のスキルアップによる社会参画が求められている。

(2)KPIに寄与しているか

主に女性を対象に、商品開発からマーケティングまでのプロセスを実践型研修として実施して、商品開発に係る知識の習得により、起業や自身の事業の発展につながった。

(3)KPIの達成状況

研修受講者の中から、起業する女性が2名、研修内のグループで活動を継続して受講者が4名となっている。

(4)整備された施設や成果物は活用されているか

研修後、受講者による試作品を商品としたクラウドファンディングの実施など実践につながっている。

(5)コスト削減や業務効率化に向けた工夫

特定の道の駅をモデルとして設定し、実施したことで、より具体的、実践的な研修内容となった。

(6)関連している事業との連携状況

創業支援事業として、創業に向けた基本的知識を習得するなど創業を支援する研修プログラムも実施している。

○今後の展開

研修後、受講者による試作品を商品としたクラウドファンディングの実施など実践につながっている。
 事業としては、フォローアップとして、平成29年度は開発した商品の販売手法や見せ方など「販売」をテーマにした研修を行うとともに、商品開発について他の道の駅等を題材に研修を行うことを予定している。

○今後、キーパーソンとなる人物や団体(この事業によって得られた成果物なども含む)

研修受講者が、内容や研修後の取り組みをメディアで取り上げられるなど、これからの地域の中心人物となりうる若手の女性が輩出されている。

地方創生交付金事業評価調書

細事業名	実践型人材育成事業【観光コンシェルジュ】	担当課	美山支所地域推進課
実施時期	H28.12～H29.3		
交付金名	地方創生推進交付金	基本目標	3若い世代の夢をかなえる
事業費(千円)	2,851	施策の展開	(1)結婚・出産・子育ての夢をかなえる支援
交付金充当額(千円)	1,425	想定される主な事業	④女性の活躍の場を広げる
		基本目標	1「しごと」を創出し働く場をつくる
		施策の展開	(1)新たな「しごと」にチャレンジする就業・起業支援
		想定される主な事業	①創業・起業の支援

○事業の目指す方向

エコツーリズムの推進や森の京都構想、また、国定公園の指定により多くの観光客の来訪を目指す中で、国内外の多様なニーズに対応できる観光コンシェルジュの育成を行うことで、南丹市美山町内での回遊性を高め滞在時間を延ばす仕組みづくりと情報発信をあわせて行い、地域経済の活性化につなげる。

○事業概要

南丹市美山町地域の観光資源と観光ニーズを理解した上で、情報を収集し、発信することができる人材を育成するため、情報の収集からPRなどマーケティング手法を習得する研修プログラムを実施した。
また、美山町内での回遊プランやツアー商品の開発、PRツールの作成、国内外へのプロモーション活動を行った。

○実施状況


■観光人材育成プログラム講座
「観光コンシェルジュとは何か」
「南丹市における観光事業の課題」
「DMOについて」など研修の開催

■ツアー開発
雪灯廊ツアー・雪まつりツアー
(美山町自然文化村やエコツーリズム推進協議会との連携により企画実施)

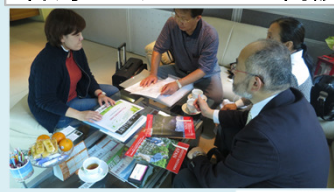
■PRツール作成
ポスター、クリアファイル、プロモーション用キット

■プロモーション活動
台湾高雄市・台中市エージェントへの商談


講座募集チラシ



台湾エージェントとの商談



イベントカレンダー
(プロモーション用キットの一部)



○KPI

KPI	指標値	実績値(H29.4現在)	達成度(100%)
女性起業者数	5	2	40%

○分析

(1)市民や社会のニーズを反映しているか

美山町内での集客が期待できる道の駅美山ふれあい広場は、多くの観光客やドライブ客が訪れているが、近年は外国人観光客の増加、消費者ニーズの変化が見られ、南丹市「森の京都」推進計画にも掲げられるとおり、交流人口の拡大を図る取り組みとして観光窓口機能の強化による道の駅の機能の充実を図る。

(2)KPIに寄与しているか

来訪者への観光サポートや情報発信、新たな地域の魅力を提案するための企画立案等、観光コンシェルジュとしてのスキルを習得することで、美山町観光協会などと連携した観光総合窓口機能となり得る人材の育成が図れる。

(3)KPIの達成状況

子育て世代の女性の受講者がなくKPI達成を目指す段階に至らなかったものの、観光コンシェルジュとしてのスキルを習得し、地域の魅力を発信できる人材育成を行うことで、今後の観光産業に携わる上での有効な研修の場となった。

(4)整備された施設や成果物は活用されているか

プロモーション用キットは、イベントチラシやマップなどをファイル形式にしたもので、旅行会社との商談に使い勝手がよく、効果的なPRが行えた。
また、道の駅でのポスターの掲示、クリアファイルも来客などに好評となっている。

(5)コスト削減や業務効率化に向けた工夫

クリアファイルやポスターなどの制作にあたっては、美山DMOや美山町観光協会と協力して原画の作成を行い、業者へのデザイン料の削減を図った。

(6)関連している事業との連携状況

観光によるまちづくりを目指す美山DMOやエコツーリズムの推進、美山町観光協会の事業との関連が強い。また、美山町での都市農村交流の核となる美山町自然文化村の整備、国定公園ビジターセンター設置の動きにも関連する。

○今後の展開

美山町地域でのエコツーリズムの取り組みの継続と更なる推進を図り、南丹市美山町の観光地域づくりへの発展、今後の道の駅でのサービス向上につなげる必要がある。本事業の取り組みにより、農村体験などを通じた地域の魅力の発信に努め、観光から移住や定住への発展を目指す。

○今後、キーパーソンとなる人物や団体(この事業によって得られた成果物なども含む)

美山DMO、美山町観光協会、南丹市美山エコツーリズム推進協議会

地方創生交付金事業評価調書

細事業名	小学校跡施設利活用推進事業	担当課	地域振興課
実施時期	H29.1～H29.3		
交付金名	地方創生加速化交付金	基本目標	4誰もが安心して暮らせる地域をつくる
事業費(千円)	8,986	施策の展開	(1)魅力ある次代の地域づくり
交付金充当額(千円)	6,863	想定される主な事業	②地域活性化拠点づくりの推進

○事業の目指す方向

小学校跡施設の利活用の推進と併せ、施設改修による定住サポートセンター利用者の利便性を高め、利用者の増加につなげる。

○事業概要

多目的トイレ新設
スロープ新設

○実施状況

旧五ヶ荘小学校の多目的トイレの新設と玄関、廊下部分のスロープ新設



○KPI

KPI	指標値	実績値(H29.4現在)	達成度(100%)
地域自治団体の設立	2	4	200%
廃校舎の利用	2	4	200%

○分析

(1)市民や社会のニーズを反映しているか

旧小学校施設は、玄関や渡り廊下に階段があり、トイレは和式トイレであるなど、高齢者や幼児の利用に支障をきたしており、多目的トイレやスロープ等のバリアフリー施設の設置は、地域からの要望でもある。

(2)KPIに寄与しているか

施設を改修することにより、幅広い年代の方に施設を利用してもらうことが可能となり、利用者の増加につながる。

(3)KPIの達成状況

旧小学校11施設のうち、今年度、4施設において、地元組織が指定管理者となり、地域活性化センターとして新たな地域振興の拠点として、利活用を図っていくこととなった。

(4)整備された施設や成果物は活用されているか

有効に活用されている。

(5)コスト削減や業務効率化に向けた工夫

(6)関連している事業との連携状況

他の地域活性化センターとも連携を取り、利活用の推進を図る。

○今後の展開

指定管理者による適正な施設の維持管理と、利活用をしてもらうための仕掛けづくりを進める。

○今後、キーパーソンとなる人物や団体(この事業によって得られた成果物なども含む)

住みよいむらづくり協議会

地方創生交付金事業評価調査

細事業名	障害者就労支援ネットワーク運営事業	担当課	社会福祉課
実施時期	H28.4～H29.3		
交付金名	地方創生推進交付金	基本目標	4誰もが安心して暮らせる地域をつくる
事業費(千円)	2,601	施策の展開	(2) 住み続けたい安心・安全のまちづくり
交付金充当額(千円)	1,229	想定される主な事業	① 共生社会の推進と仕組みづくり

○事業の目指す方向

市内障害者就労事業所のネットワークを構築し、受発注情報の収集・提供等を行うことにより、障害者就労支援事業所の経営基盤を強化し、障がい者の就労の場を確保していく。

○事業概要

市内障害者就労支援事業所の中から、業務遂行能力を持った団体を事務局として選定し、就労支援ネットワーク会議の運営、物品等パンフレットの作成及び更新、PR活動・ニーズ調査の実施、一次共同受注窓口の運営を行う。

○実施状況

(ネットワーク会議構成事業所数 10事業所)

- ① 会議開催回数 3回
- ② 事業所見学会開催回数 3回
- ③ 商品・作業パンフレットの更新 100部
- ④ 商品・作業単価一覧更新
- ⑤ 商品・作業を仲介する共同受注窓口の運営

○KPI

KPI	指標値	実績値(H29.4現在)	達成度(100%)
住みやすいと感じている市民の割合(%)	50	50	100%

○分析

(1) 市民や社会のニーズを反映しているか

障がいのある方の就労を支援する市内事業所の連携により、障がいのある方の生きがい、働きがいをつくる場所の経営基盤の強化が図れている。

(2) KPIに寄与しているか

障がいのある方の安心して働ける場所の確保が図れている。

(3) KPIの達成状況

目標どおりの達成

(4) 整備された施設や成果物は活用されているか

成果品の一つであるパンフレット「つむぐ」を本庁・各支所で窓口配置するとともに、データを市ホームページに掲載。また、共同受注窓口に関しては、市民向けにお知らせ版・ホームページ・データ放送・CATV文字放送で広報を実施。

(5) コスト削減や業務効率化に向けた工夫

事業所間の連携活動により、営業面の効率化や市場ニーズの共有が可能となった。また、共同受注窓口の開設により発注先がわからないといった消費者や単一事業所では対応できない大口受注にも対応できるようになった。

(6) 関連している事業との連携状況

特になし

○今後の展開

ネットワーク会議を核として、障害者就労支援事業所の商品開発や販路拡大等に向けた取り組みを展開していくことで障がいのある方の安心して働ける場所の確保及び工賃アップを図っていく。

○今後、キーパーソンとなる人物や団体(この事業によって得られた成果物なども含む)

構成事業所(10団体)による連携とパンフレット「つむぐ」による広報活動

地方創生交付金事業評価調査

細事業名	障害者団体活動支援事業	担当課	社会福祉課
実施時期	H28.4～H29.3		
交付金名	地方創生推進交付金	基本目標	4誰もが安心して暮らせる地域をつくる
事業費(千円)	1,400	施策の展開	(2) 住み続けたい安心・安全のまちづくり
交付金充当額(千円)	700	想定される主な事業	① 共生社会の推進と仕組みづくり

○事業の目指す方向

団体の活動を支援することにより、団体の運営の安定を図るとともに、障がいのある方に対する社会の理解と知識を深め、自立と社会参加を促進していく。

○事業概要

障がいのある方の社会参加の促進や自立した生活の支援を目的に活動する当事者団体等に対して、団体の目標達成に向けた活動を支援するための補助金を交付する。

○実施状況

市内に拠点を置く当事者団体への補助金交付。

- ・視覚障害者協会
- ・心身障害児者父母の会
- ・心身障害者季節療育事業
- ・身体障害者福祉会
- ・八木難聴者の会
- ・精神障害者家族会
- ・身体障害者相談員協議会

○KPI

KPI	指標値	実績値(H29.4現在)	達成度(100%)
住みやすいと感じている市民の割合(%)	50	50	100%

○分析

(1) 市民や社会のニーズを反映しているか

障がい者やその保護者等で構成される当事者団体や障がい者支援団体の活動事業費の一部を補助することにより、障がい者の社会参加が図れている。

(2) KPIに寄与しているか

障がい者の社会参加及び障がいのある方に対する社会の理解と認識を深めている。

(3) KPIの達成状況

目標どおりの達成

(4) 整備された施設や成果物は活用されているか

特になし

(5) コスト削減や業務効率化に向けた工夫

特になし

(6) 関連している事業との連携状況

特になし

○今後の展開

各団体では、会員の減少・高齢化等により活動を維持していくことが困難な状況が見受けられるため、団体活動の強化に向けた支援により、障害者福祉の増進を図る。

○今後、キーパーソンとなる人物や団体(この事業によって得られた成果物なども含む)

当事者団体による活動

地方創生交付金事業評価調査

細事業名	特別支援教育推進事業	担当課	学校教育課
実施時期	H28.4～H29.3		
交付金名	地方創生推進交付金	基本目標	4誰もが安心して暮らせる地域をつくる
事業費(千円)	16,242	施策の展開	(2)住み続けたい安心・安全のまちづくり
交付金充当額(千円)	7,514	想定される主な事業	①共生社会の推進と仕組みづくり

○事業の目指す方向

障害のある子どもと障害のない子どもができるだけ同じ場でともに学ぶことをめざしながら、それぞれの子どもが授業内容がわかり、学習活動に参加している実感・達成感を持ちながら充実した時間を過ごしつつ、生きる力を身に付けることを目指すもの。

○事業概要

児童生徒一人一人の学力の定着と、特別な教育的支援を必要とする児童に対して、きめ細かで個に応じた指導や支援を行う。

○実施状況

特別支援教育支援員を15名雇用し、小中学校に配置した。
特別な支援を必要とする児童生徒の教育的ニーズに応じた支援を行うことにより、一人一人の障がいや、その特性を踏まえた指導や支援の充実を図ることができた。

○KPI

KPI	指標値	実績値(H29.4現在)	達成度(100%)
住みやすいと感じている市民の割合(%)	50	50	100%

○分析

(1)市民や社会のニーズを反映しているか

障がいのある児童生徒の自立や社会参加に向けた特別支援教育を実施することにより、支援を必要とする子どもと保護者、地域の人々の願いにこたえることができた。

(2)KPIに寄与しているか

特別支援教育の充実を図ることにより、支援を必要な児童生徒にとってはもちろん、教育環境の充実にもつながり、住みやすい街づくりに繋がっている。

(3)KPIの達成状況

数値的な指標は分析できていないが、教育的支援を必要とする児童生徒の実態に応じた対応ができた。

(4)整備された施設や成果物は活用されているか

(5)コスト削減や業務効率化に向けた工夫

(6)関連している事業との連携状況

京都府にも同様の事業があり、それを充実される形で本事業を実施している

○今後の展開

共生社会の形成に向けて、同じ場でともに学ぶことをめざし、支援を必要とする児童生徒の個々の実態に応じた支援を続けていく。

○今後、キーパーソンとなる人物や団体(この事業によって得られた成果物なども含む)

地方創生交付金事業評価調査

細事業名	間伐材出材奨励事業	担当課	農林整備課
実施時期	H28.4～H29.2		
交付金名	地方創生推進交付金	基本目標	4誰もが安心して暮らせる地域をつくる
事業費(千円)	8,018	施策の展開	(3)ともに歩む広域連携の取り組み
交付金充当額(千円)	2,850	想定される主な事業	①森の京都の取り組み

○事業の目指す方向

間伐材の輸送コストの削減により、安定的な供給体制を整備し、間伐及び木材自給率の向上を図るとともに、森林の荒廃を食い止め、森林の保全につなげるもの。

○事業概要

間伐材の山土場から市場又は、間伐材加工施設までの輸送に係る経費について、実績に応じて1m³当たり300円以内の補助をすることにより、コスト削減を図り間伐促進に寄与する。

○実施状況

平成28年度については、26,729m³の間伐材の搬出を補助した。

○KPI

KPI	指標値	実績値(H29.4現在)	達成度(100%)
森の京都関連事業実施数	4	6	150%

○分析

(1)市民や社会のニーズを反映しているか

林家の山離れによる森林の荒廃を食い止め、森林の持つ公益的機能を十分に発揮するためには、間伐実施は不可欠である。

(2)KPIに寄与しているか

木材価格の低迷が長期化する中で、搬出費用の軽減を図ることにより、林家の間伐意欲が継続され、災害に強い森林が保全される。

(3)KPIの達成状況

(4)整備された施設や成果物は活用されているか

間伐により森林整備を促進し、公益的機能を発揮させることが可能となる。

(5)コスト削減や業務効率化に向けた工夫

森林経営計画の策定。

(6)関連している事業との連携状況

森林整備事業の搬出間伐と連携している。

○今後の展開

今後も継続して、間伐材の輸送コストの削減により、安定的な供給体制を整備し、間伐促進及び木材自給率の向上を図るとともに、森林の荒廃を食い止め、森林の保全につなげるもの。

○今後、キーパーソンとなる人物や団体(この事業によって得られた成果物なども含む)

各町森林組合及び出材先企業

地方創生交付金事業評価調査

細事業名	森の京都観光事業	担当課	商工観光課
実施時期	H28.5～H28.9		
交付金名	地方創生加速化交付金	基本目標	4誰もが安心して暮らせる地域をつくる
事業費(千円)	2,000	施策の展開	(3)ともに歩む広域連携の取り組み
交付金充当額(千円)	2,000	想定される主な事業	①森の京都の取り組み

○事業の目指す方向

JR日吉駅構内の店舗を南丹市から日吉町観光協会が借り受け、一部を改修し日吉町観光協会の事務所及び観光案内所・特産品販売所として活用することにより、近年増加してきた国外からの観光客への案内・情報発信・特産品の販売等を行い地域の活性化を図る。

○事業概要

日吉町観光協会事務所をJR日吉駅構内に移転
店舗改装及び観光案内カウンターを設置

○実施状況

日吉町観光協会事務所をJR日吉駅構内に移転
店舗改装及び観光案内カウンターを設置

○KPI

KPI	指標値	実績値(H29.4現在)	達成度(100%)
森の京都関連事業実施数	4	6	150%

○分析

(1)市民や社会のニーズを反映しているか

JR日吉駅構内に移転したことで、適宜ニーズに応じた観光案内が可能になった。また、特産品の販売を始めたことで、商品の認知度が上がり、売り上げの増加につながっている。

(2)KPIに寄与しているか

外国人観光客や、一般観光客に迅速に対応できている。

(3)KPIの達成状況

達成している

(4)整備された施設や成果物は活用されているか

大いに活用されている

(5)コスト削減や業務効率化に向けた工夫

(6)関連している事業との連携状況

○今後の展開

ニーズに応じた観光案内を継続していく

○今後、キーパーソンとなる人物や団体(この事業によって得られた成果物なども含む)

地方創生交付金事業評価調書

細事業名	森の京都推進事業	担当課	定住・企画戦略課
実施時期	H28.6～H29.3		
交付金名	地方創生推進交付金	基本目標	4誰もが安心して暮らせる地域をつくる
事業費(千円)	2,500	施策の展開	(3)ともに歩む広域連携の取り組み
交付金充当額(千円)	1,250	想定される主な事業	①森の京都の取り組み ③広域観光の取り組み

○事業の目指す方向

京都府と亀岡市、南丹市、京丹波町、綾部市、福知山市、京都市右京区京北が連携し、取り組んでいる「森の京都」のターゲットイヤーと平成28年度を位置づけ、「森の京都博」として年間を通じ、エリア全体をパビリオンに見立て、さまざまな交流型イベントなどを開催することで、森の京都を全国に発信し、地域の活性化を図るとともに『森の京都エリア』への「ひと」の流れを創出する。

○事業概要

森の京都の機運を高め、市への交流人口の増加や地域の活性化の推進を図るため、地域住民や企業、団体が主となる実行委員会等が行う『森の京都』の発信に資するイベント事業の拡充部分等に対し、補助金を交付する。

○実施状況

- ・ひよし夏祭り花火大会2016(H28.7.17 7,000人) 日吉ダム・スプリングスパーク周辺
- ・プロジェクションマッピングコラボレーション花火事業(同上)
- ・森の恵みが生み出す美山川活性化イベント(H28.7.18 20人、H28.8.21 48人) 美山町安掛周辺
- ・清流美山の鮎まつり(H28.8.14 2,500人) 美山町自然文化村周辺
- ・京都美山さば寿司さみっとin鶴ヶ岡(H28.11.13 1,000人) 旧鶴ヶ岡小学校
- ・かやぶきの里雪灯廊(H29.1.28～2.4 10,000人) かやぶきの里内



○KPI

KPI	指標値	実績値(H29.4現在)	達成度(100%)
森の京都関連事業実施数	4	6	150%

○分析

(1) 市民や社会のニーズを反映しているか

地域住民等が森の京都の推進に自ら取り組むイベント等に対し、補助金を交付するものであり、市民等のニーズを反映したものである。

(2) KPIに寄与しているか

補助事業により、森の京都に寄与する新規イベント一つを含め、拡充した六つのイベントを各地域住民等が主体となって実施し、地域の活性化につながった。

(3) KPIの達成状況

地域住民等が森の京都の推進に自ら取り組むイベント等に対し、補助金を交付することにより、KPIを達成できた。また、「ひと」の流れの創出にも寄与し、「観光入込客数」や「外国人観光客の宿泊者数」にも寄与している。

(4) 整備された施設や成果物は活用されているか

拡充した内容や新規のイベントを引き続き、地域住民等が自らの力で実施していくものがある。

(5) コスト削減や業務効率化に向けた工夫

地域住民等が自らのアイデアと力でイベントを実施し、まさに森の京都の推進に係る市民協働の取り組みとなっている。

(6) 関連している事業との連携状況

森の京都地域振興社(森の京都DMO)事業と連携して取り組みを進めた。また、観光事業だけでなく定住促進にもつながるよう努めた。

○今後の展開

この補助事業については、平成28年度の森の京都のターゲットイヤーに特化して取り組むために実施したものである。この補助を受けて実施した拡充・新規イベントの成果等を今後、地域住民等が行うイベント等に反映していく。また、地域住民等と市が協働して森の京都を推進し、地域の活性化につなげていく。

○今後、キーパーソンとなる人物や団体(この事業によって得られた成果物なども含む)

美山漁業協同組合、清流美山の鮎まつり実行委員会、日吉町観光協会、鶴ヶ岡振興会、かやぶきの里雪灯廊実行委員会

地方創生交付金事業評価調書

細事業名	森の京都推進事業	担当課	定住・企画戦略課
実施時期	H28.5～H29.3		
交付金名	地方創生加速化交付金	基本目標	4誰もが安心して暮らせる地域をつくる
事業費(千円)	18,500	施策の展開	(3)ともに歩む広域連携の取り組み
交付金充当額(千円)	18,500	想定される主な事業	①森の京都の取り組み ③広域観光の取り組み

○事業の目指す方向

京都府と亀岡市、南丹市、京丹波町、綾部市、福知山市、京都市右京区京北が連携し、豊かな自然の保全、林業の活性化や森の文化の継承と発信、戦略的交流拠点づくりやアクセスの強化、観光プロモーション、イベントを実施することにより、多くの人々が訪れ、魅力を感じる京都府中部の地域づくり、「森の京都」を推進し、地域の活性化を図るとともに交流人口拡大及び定住促進の取組を推進する。

○事業概要

平成28年度を「森の京都ターゲットイヤー」として、年間を通じ、地域全体をパビリオンに見立て、府・6市町・地域が一体となって実行委員会を組織し、交流型イベントの開催、地域内の観光情報の一元化と発信、エコツーリズム、スポーツツーリズムの催行など「森の京都博」を展開する。その実行委員会などを母体として、「森の京都」の地域商社的な役割を担う「森の京都DMO」を設立し、地域製品のブランド化と販売強化、観光振興など、「森の京都」をテーマにした地域づくりを進め、地域の活性化を図るとともに交流人口拡大及び定住促進の取組を推進する。

○実施状況

『森の京都博実行委員会』

- ・森の京都博×mer☆ガールズFes 森の京都ツアー(H28.5.27 83人)
綾部市・南丹市コース、京北地域・亀岡市コース、福知山市・京丹波町コース
- ・森の京都博×mer☆ガールズFes (H28.5.28 1,500人) ガレリアかめおか(亀岡市)
- ・「森の京都博」キッズサマーイベント【予選会】(in京北7.16, in京丹波町7.17, in綾部市7.23, in南丹市7.24 2,000人)
- ・「森の京都博」キッズサマーイベント(H28.8.27 3,000人) 三段池公園(福知山市)

『森の京都DMO(森の京都DMO設立推進協議会)』※一般社団法人 森の京都地域振興社 設立H29.3.20

- ・着地型旅行商品造成業務
- ・観光客動態調査業務

『森の京都コアイベント事業』

- ・新緑祭inSTIHLの森 京都(H28.5.3～5 4,456人) STIHLの森 京都(南丹市)
- ・プロジェクションマッピング(H28.7.18 7,000人) 日吉ダム・スプリングスパーク(南丹市)
- ・京都南丹花火大会(H28.8.14 90,000人) 大堰川河川敷(南丹市)
- ・ひよし水の杜フェスタ(H28.9.18 荒天のため中止) スプリングスパーク(南丹市)
- ・美山ふるさと祭り(H28.11.3 1,500人) 美山支所・美山文化ホール周辺(南丹市)



○OKPI

KPI	指標値	実績値(H29.4現在)	達成度(100%)
森の京都関連事業実施数	4	6	150%

○分析

(1)市民や社会のニーズを反映しているか

森の京都管内には、多くの魅力的な資源が存在している。また、それぞれの地域で活発な活動を展開されている。しかしながら、多くの資源等の知名度が低く、それらの知名度をどう高め、どのように発信していくかが大きな課題となっていた。この「森の京都」の取り組みにより、多くの資源等の魅力を一元的に集約し、『もうひとつの京都 森の京都ブランド』として、日本だけでなく世界中に発信し、交流人口の拡大や地域経済の活性化を図り、地域の振興に寄与するものである。

(2)KPIに寄与しているか

平成28年度を「森の京都ターゲットイヤー」と位置づけ『森の京都博』を展開し、連携・市独自を含め多くの森の京都に関連する事業に取り組んだ。また、地域や企業等においても「森の京都」にちなんだ独自の取り組みを実施し、地域の活性化に寄与するとともに森の京都エリアへの「ひと」の流れを創出した。

(3)KPIの達成状況

平成28年度を「森の京都YEAR」と位置づけ『森の京都博』を展開し、連携・市独自を含め多くの森の京都に関連する事業に取り組む、KPIを達成できた。また、「ひと」の流れの創出にも寄与し、「観光入込客数」や「外国人観光客の宿泊者数」にも寄与している。

(4)整備された施設や成果物は活用されているか

取り組んだ観光客動態調査結果をさらに詳細に分析し、着地型旅行商品の効果的な販売方法の検討や新たな魅力ある旅行商品の造成、観光プロモーションなどに取り組むこととしている。また、森の京都エリアの情報を一元的に発信するホームページを構築しており、森の京都DMOにおいて運営していく。

(5)コスト削減や業務効率化に向けた工夫

京都府、6市町が連携し取り組んでいる事業であるため、重複した作業や漏れ等ができないように、担当者間で連絡調整を密に取り、業務執行に取り組んだ。

(6)関連している事業との連携状況

観光事業だけでなく定住促進にもつながるよう努めている。

○今後の展開

設立した「森の京都地域振興社」を核に、京都府・6市町で連携し、地域など民間活力を最大限活用する中で、「森の京都」を世界中に発信しながら「南丹市」の存在感を発揮し、南丹市の知名度をさらに向上させ、交流人口の拡大を図っていく。

○今後、キーパーソンとなる人物や団体(この事業によって得られた成果物なども含む)

森の京都地域振興社、南丹市観光まちづくり実行委員会(各市内観光協会)、南丹市美山観光まちづくり協会、南丹市美山エコツーリズム推進協議会、美山ふるさと株式会社、市内道の駅、市内観光関連事業者、京都丹波・食と森の交流協議会、京・来て観て丹波の会